

大牟田市石炭産業科学館

九州大学総合研究博物館

九州大学総合研究博物館 第21回 公開展示

# 野田榮コレクション

—大牟田産化石と九大標本でつむぐ

大学博物館のいま—

2022

3.19(土) ▶ 5.8(日) 9:30 - 17:00

**会場** 大牟田市石炭産業科学館 企画展示室

**休館日** 毎週月曜日 ただし、月曜が祝日の場合は翌日休館

**入場料** 無料 常設展示室観覧は有料

九州大学総合研究博物館 第21回 公開展示

# 野田榮コレクション

—大牟田産化石と九大標本でつむぐ  
大学博物館のいま—

大牟田地域では新生代古第三紀始新世(約5600万年～3390万年前)の化石が数多く見つかっています。これらの化石は1900年代初頭から様々な研究者によって研究されてきただけでなく、地元の化石愛好家の手でも集められました。本展ではこれまでに大牟田地域でどのような研究が行われてきたのか、そして大学博物館では今どのような研究が進められているのかをご紹介します。

## 九州大学総合研究博物館 公開展示について

九州大学総合研究博物館は2000年の創設以来、九州大学で行われている研究や教育を広く紹介するため、学外の公立博物館等と共催で公開展示を行っています。

## 「地元」 の化石に注目

野田榮コレクションは、大牟田市出身の元小学校教諭・野田榮(のだ・さかえ)氏が30年以上にわたり収集した化石コレクションです。本コレクションは勝立層から産出しており、カルカロドン・ノダイなどの新種化石や、化石が生きていた当時の環境を知る手がかりとなる標本が多く含まれる貴重なコレクションです。地元で見つかった化石を観察して、大昔の大牟田はどんな場所だったのか想像してみましょう。

サメの歯の新種化石 カルカロドン・ノダイ (レプリカ) ▶



▲ クランツ標本の貝化石とラベル

本展では九州大学総合研究博物館所蔵の多種多様な標本を公開します。なかでも「クランツ標本」は、100年以上前から保管されている化石コレクションです。クランツ標本には大牟田地域と同じ始新世の標本も含まれており、野田榮コレクションと比較することで堆積環境の違いを考えることができます。

## 「九大標本」 の公開

## 大学博物館の 「いま」

近年大学博物館では、標本3Dモデルのデジタルアーカイブ化が進められています。この取り組みによって、遠隔でも標本の観察や研究利用が可能になります。本展では野田榮コレクションの3Dモデルを活用した最新の研究例を紹介します。また、AR技術を用いた化石の比較観察も体験できます。

研究例: 3Dモデルを用いた化石と現生標本の比較 ▶



## 大牟田市 石炭産業科学館

OMUTA COAL INDUSTRY AND SCIENCE MUSEUM

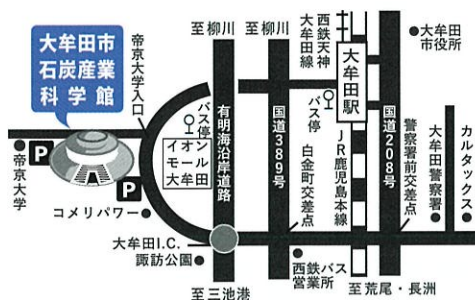
〒836-0037 福岡県大牟田市岬町 6-23

TEL. 0944-53-2377

アクセス 大牟田駅西口よりバス  
イオンモール行、帝京大学福岡キャンパス行  
九州自動車道 南関ICより25分



◀ 詳細はHPをご確認下さい



九州大学総合研究博物館  
The Kyushu University Museum

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

TEL. 092-642-4252 (事務室)

開館時間 平日 10:00-17:00